

2011.11.02

# スウェーデン森の都でデザインによる町おこし

担当：Rica

スウェーデン南部の森の都Småland(スモランド)、デザイン産業と観光をうまく結びつけた『町おこし計画』を世界に向けて発信、日々成長を遂げているらしい。というのも、今回訪れた『HEM&VILLA(ヘム&ヴィラ)』というストックホルムの見本市でこの町おこしに遭遇したからだ。



モーベルリーケット社が発行している無料のガイドブックから

私にとって、スモランドは単なる田舎、工業の町、IKEAの発祥の地、何を話しているのかよくわからないスコーネ弁。そのくらいのイメージでしかなかった。それがこの見本市で私の『今イチなイメージ』を塗り替え『パーフェクトなデザインの町』なのかもしれないと思われた。イメージ向上のプレゼンテーションをしてくれたのは、Möbelriket ab(モーベルリーケット)社。地域の産業でもある家具デザインをうまく観光に結びつけてしまうあたりは、スウェーデンらしさなのかもしれない。

そもそも、このモーベルリーケット社というのはスウェーデンの家具デザインのためのミーティングポイントとして発足された会社。創造性、生産や商業観光がうまく融合し合いスモランドのイメージ向上につながればというのが目的。



今回の見本市でのメインのデザインブースと言っても過言ではない彼らのミニ工房をイメージした『ハンドメイドの家具』のブースはイタリアの職人の工房を思わせるような味わいのある雰囲気であまっていた。また、テーブルコーディネイトも美しくまとめられ、現場には二人の職人が常備し、実演で彼らの熟年の技を披露していた。スウェーデンの産業のほとんどは、従来ハンドメイドというより、大量生産&大型店で成り立っている。皆さんご存知のIKEA式だ。近年は、スウェーデン生産ではコストがかかりすぎるため、中国や近隣のリトアニアなどで生産している企業がほとんどだが、フランス的なエレガント高級家具をハンドメイド生産しているから、驚きのなだ。

というのも、一般のスウェーデン人は高い家具は買わないでIKEAで十分と思っているのが現状。なので、ビジネス的には世界に目を向けた活動と言える。スウェーデンには家具の職人資格試験があるのは知っていたけど、どこで役に立つのだろうか？と、思っていた私。なるほど、こういうところで生かされているのか、と納得した。

日本での町おこしは新しい施設を作ったり、大きな資金導入を考えるが、このスモランドの考え方はある物を利用してそれ自体を観光化してしまおう！という考え方。彼らのもつ『町を愛する思い』とその町の『出身者の誇り』から来ている。



左上、ハンドメイド家具のテーブルコーディネイト。上中、エルアコのブース。右上、ハンドメイド職人。左下&下中、エルアコのブース。右下、会場の植物。

以下、独断と偏見で選んだ『スモランド 町おこしアイデアベストランキング3』を紹介しよう。

ベスト1、『Designers Saturday bus(デザイナーズ サタディ バス)』土曜日にも運行されるデザインの名所を回るバス。古いボタン工場やデザイナーの展示会場そして夜は著名なデザイナーのトークショーで有名な『べちゃくちヤナイト』を視聴などなど。

ベスト2、ヤングデザイナーを全面に売り出すプロジェクト『グリーンデザイン』31人のスウェーデン在住、新人家具のアーティストを集めスウェーデン内外の見本市に無料で展示の機会を与えている。デザイナーに取っては魅力のプロジェクト。

ベスト3、歴史、デザイン、地域の産業、デザインの学校紹介、アーティスト紹介、観光名所、食やデザインホテルなどを洗練された写真と文章で紹介する モーベルリーケット社が発行している無料のガイドブック。写真が奇麗なので見るだけでも楽しい一品。

Hem&Villa: <http://www.hemochvilla.se>  
 mobilriket AB: <http://www.mobilriket.se>  
 Småland: <http://www.visitsmaland.se/web/Smaland.aspx>



WRITER PROFILE  
 Rica

ファッションデザイナー。ジュニアシダのデザイナーを経て代官山でオートクチュールのドレスサロン経営。のちにマルタ共和国→シリア島...と北へ北へと移り住み、現在スウェーデン在住。2009年夏より、オリジナルブランド『Rosenkrona』を立ち上げ、北欧と日本で活動中 ([www.rosenkrona.com](http://www.rosenkrona.com))。各国の手工芸、アンティーク、アルゼンチンタンゴ、ワイン&食、秘境の町&村めぐりなど興味は広範囲。